

身近な医療情報はこちら!

31号

しおかぜ通信

編集・発行
神戸市立医療センター中央市民病院
広報委員会
TEL 078-302-4321

ホームページ <http://chuo.kcho.jp>

腎臓内科のご紹介

腎臓内科部長 吉本 明弘



腎臓内科では、尿検査異常（蛋白尿、血尿）から腎不全まで、腎臓に関わる全身の様々な症状の診療にあたっています。主な病気としては、腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、慢性・急性腎不全です。特に慢性腎臓病では、心筋梗塞や脳梗塞などの心血管疾患を合併する危険が高く、我が国の患者数は1330万人（20歳以上の成人の8人に1人、神戸市内で約20万人）と推定され、新たな国民病ともいわれています。腎臓病の初期は、尿検査でたんぱく尿や血尿を指摘されることが多く、自覚症状がない場合がほとんどですが、腎臓の病気は、予防、早期発見、適切な診断、早期治療が最も大切です。

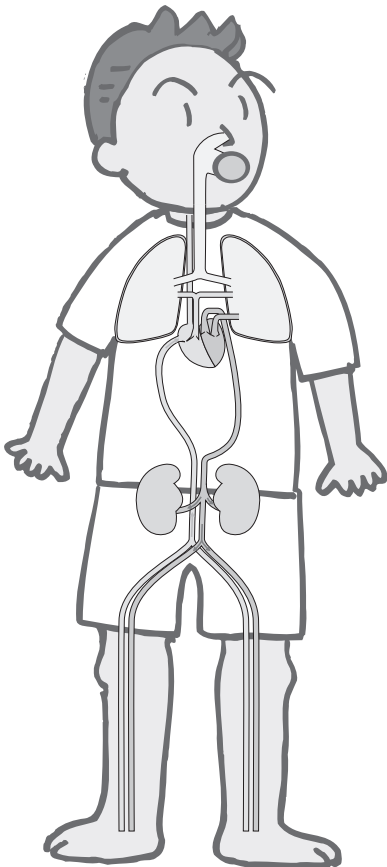
適切な診断のために、腎臓の組織の一部をとって調べる腎生検を必要に応じて積極的に施行し、治療に反映しています。腎臓病の治療の基本は、食事

療法、薬物療法（ステロイド、高血圧薬など）ですが、腎臓の障害が進行すると透析もしくは腎移植が必要になります。また、腎疾患以外でも消化器内科や循環器内科、神経内科などと協力して、白血球除去療法、LDL アフェレーシスなどの血液浄化療法も行っています。

さらに、腎臓の働きや各種薬剤、検査について、患者さんにより一層理解していただくために、管理栄養士、薬剤師、看護師、検査技師、臨床工学技士などとチーム医療を実施し、どなたでも参加していただける腎臓病教室を定期的で開催したり、1週間の腎不全教育入院をすすめております。

腎臓病を的確に診断・治療するためにはこれまでの患者さんの症状や検査結果の経過が重要になりますので、当院受診の際にはかかりつけの先生と相談し、紹介状を作成してもらって下さい。また、腎臓病は完全に治ることが少なく、症状が安定している患者さんは連携をとりながら地域のかかりつけの診療所で継続治療していただいています。

腎臓病は特徴的な自覚症状がなく、長い経過をとることが多いですが、早期に発見し適切に治療すれば、腎不全への進行を遅らせたり、全身の合併症を予防することができます。



歯科・歯科口腔外科のご紹介

歯科・歯科口腔外科部長 竹信 俊彦



当科は神戸市ならびに近隣地域の急性期救急医療を中心とした基幹病院として、一般の開業歯科医院では治療が困難な口腔外科的疾患に対して標準的治療を高い水準で行うとともに、最先端の高度口腔外科医療に積極的に取り組んでいます。埋伏した親知らずや過剰歯の抜歯を始めとして、心臓病や高血圧、糖尿病、血が止まりにくくなるお薬を服用されるなど、一般の開業歯科医院では治療が困難な方の抜歯や麻酔処置を歯科医院からのご紹介により行っています。地域の開業歯科医院と連携して行いますので、ご来院の際には紹介状をお持ちください。その後の歯の詰め物、被せもの、ブリッジ、入れ歯や歯周病の治療は開業歯科医院でお願いしています。

主に口腔外科的疾患に取り組んでいます：顎口腔の炎症、顎嚢胞、口腔腫瘍、歯・口腔顎顔面外傷、顎変形症、顎関節の疾患、唾液腺疾患、口腔粘膜疾患などの口腔外科的疾患に対して、標準的治療を高い水準で提供できるように努力しています。口腔がんとその他の口腔悪性腫瘍の治療は全て頭頸部外科に集約しており、頭頸部外科の要請時に共同で手術に参画し顎切除・顎骨再建を担当しています。また喪った歯に対してのインプラント治療と歯槽骨再生手術を長年に渡り数多く経験しています。

低侵襲口腔外科手術：歯科領域ではいち早く内視鏡を取り入れた低侵襲口腔外科手術に取り組んでいます。下顎骨骨折で高頻度に合併する顎関節突起骨折に対して、口腔内から内視鏡支援下に整復固定を行う内視鏡支援下顎関節突起骨折観血的整復固定術は、顔面の皮膚切開を行うことなく骨折部分を固定するため傷跡を残しません。上下顎骨折手術では手術時に適切な咬合を確立し、術後の顎間固定（ワイヤーで上下の歯を縛って口が開かないようにする処置）を行わない治療を目指しています。そのため患者さんは翌日から経口摂取が可能です。また、唾石症の治療では唾液腺内視鏡による唾石摘出術や口腔内切開による唾石摘出術に数多く取り組んでおり、ほとんどの場合で顎下腺摘出を回避できています。

顎変形症の外科的矯正手術を数多く経験しています：歯列矯正治療のみでは改善できない骨格性不正咬合（顎変形症）の外科的矯正治療を矯正歯科専門医と連携して行っています。上顎や下顎の骨切り術による骨格と咬合の改善を行います。また口唇口蓋裂を始めとした先天性疾患の高度顎変形症では顎骨に対する骨延長術や、形成外科と連携して骨格のみならず軟部組織の改善も目指しています。

癌が光る!? PET/CT 検査とは？

近年、「がん」の検診や診断に注目されている検査として「PET(ペット)検査」があります。小さな癌を早期に発見したり、全身の転移を検索したり、治療方針をたてるために有用と言われていています。当院には16列のマルチディテクター CTを搭載したGE社製Discovery 600MのPET/CT装置（図1）があります。年間約2100件の「PET/CT検査」を行い、専門の医師が読影しています。

◆ PETとは？ PET/CTとは？

「PET」とは「Positron Emission Tomography」の略で、「陽電子放射断層撮影」という意味です。陽電子という放射線を出す物質を含んだ薬を注射し、体から出る放射線（ γ (ガンマ)線）をPET装置で撮影することにより画像化します。当院では ^{18}F -FDGという、ブドウ糖に似た放射線の薬を注射します。PETの画像はCTやMRIに比べると少しぼやとした画像です。

一方、「PET/CT」はPETの機能とCTの機能を併せた装置で撮影します。CTでは「形態・位置」（図2.a）

を主に診ますが、PETは「機能」(図2.b)を診ます。これらを組み合わせ撮影することで、より精度の高い診断をすることができます。(図2.c)

◆ PET 検査の原理は？

^{18}F -FDGという薬は、細胞のエネルギーの源であるブドウ糖とよく似た働きをします。体内にはいるとブドウ糖(エネルギー)をより多く使う脳や心臓に ^{18}F -FDGが集まります。また、がん細胞は細胞分裂が盛んなため、多くのエネルギーを使います。そのため正常な細胞より多くの ^{18}F -FDGを取り込みます。つまり、糖代謝の高い脳や心臓のほかに「がん」にも ^{18}F -FDGが多く集まり、画像にすると集積して(光って)見えるので、小さな「がん」でも見つけやすいとされています。

◆ PET/CT 検査と被ばくについて

PET検査に用いる ^{18}F -FDGは放射線(γ (ガンマ)線)が出るので、わずかですが被ばくします。しかし、 ^{18}F -FDG半減期(放射性物質の寿命)は110分と短いうえに、腎臓から尿として排出されるのでPET検査による被ばくは人体にほとんど影響がないと言われています。PET/CT検査はこれにCTの被ばくが加わります。

◆ 保険適用

平成22年度4月よりPET/CT検査健康保険の適応となりました。しかし、すべての「がん」が健康保険の対象となっているわけではなく、適応されるのは早期胃癌を除く悪性腫瘍や虚血性心疾患やてんかんです。それぞれについて適用を受けるための具体的な条件が定められています。

◆ PET/CT 検査の流れ

他の糖の取り込みを抑えるために、検査前は6時間絶食とし、 ^{18}F -FDGを注射で投与します。投与後は薬が行きわたるまで1時間安静室で過ごします。その後20分ほどの撮影を行い検査は終了です。

◆ PET/CT の弱点

正常でも多く集積する脳など、部位によっては病巣を発見しにくいことや、「がん」の種類によっては発見が困難な場合があります。

このように近年注目されている検査を当院の核医学検査室で行っており、専門医師による読影も行っています。検査の詳細、ご質問等は主治医にお尋ね下さい。



図1. GE社製 Discovery 600M PET/CT装置

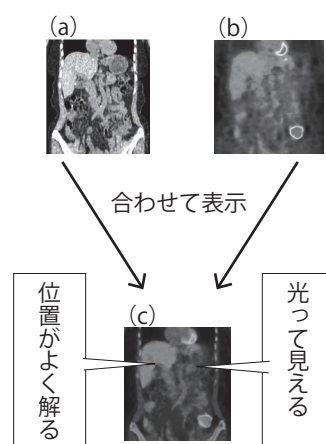


図2. (a) CT画像 (b)PET画像 (c) PET/CT画像

患者さん、ご家族、面会者の皆様へのお願い

病状等に関する医師からの説明は、緊急時や医師、患者さん・ご家族の都合によりやむを得ない場合を除き、平日の17時30分までとなっております。(平日夜間、土日祝は実施いたしておりません)

お手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

市民の皆様へ

ご寄付のお願い

神戸市立医療センター中央市民病院 院長 坂田 隆造

神戸市立医療センター中央市民病院は、「神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供する。」を基本理念とし、救急医療・高度医療を中心に、日々、地域の皆様の健康維持に努力しております。医学の世界は日進月歩で進行しており、新しい医療に対応するためには、常に最新の機器整備をおこなう必要があります。そのためには多額の資金が必要となり、財源の確保に日々苦慮しているところです。



当院は、これからも地域の皆様へより良質で安全な医療を提供していきたいと考えています。

企業、個人の皆様に寄付という形で当院の運営に共に携わっていただきたいと思っておりますので、金額の多寡にかかわらず御支援を賜りますようお願い申し上げます。

いただいたご寄付の用途

いただいたご寄付の用途としては、病院環境の整備、患者サービスの向上、最新医療機器の整備、臨床研究などがあり、できるだけご寄付された方のご意見を反映して使用させていただきます。



ご寄付いただける方は…

下記お問い合わせ先へご連絡ください。申し込み方法についてご連絡させていただきます。

税制上の優遇措置

当院にご寄付いただいた場合は、税制上の優遇措置を受けることができます。

個人の場合…

所得税法の規定により、一定額の寄付金控除が認められます（神戸市民以外の方も対象）
神戸市民の方は、神戸市個人市民税についても、一定額の寄付金控除が認められます。

法人の場合…

法人税法の規定により、寄付金全額の損金算入が認められます。

お問い合わせ

神戸市立医療センター中央市民病院 事務局庶務課経理調達係
〒650-0047 神戸市中央区港島南町2丁目1番地の1
連絡先：078-302-4321（代表） E-mail：kifu@kcho.jp



ご寄付窓口

ご寄付をいただいた皆様（平成27年10月～平成27年12月）

当機構にご寄付を賜りました方々を、感謝の気持ちとともにここに掲載させていただきます。（順不同掲載）
平成27年10月～平成27年12月の寄付者は以下のとおりです。いただいたご寄付につきましては、病院環境の整備、医療機器の整備、臨床研究など、できるだけご寄付いただいた方のご意見に沿って活用させていただきます。改めて感謝申し上げます。

和田 直哉 様	土谷 淑子 様	橘田 惣一 様	山口 松子 様
門脇 博 様	下井田 條次 様	高石 昇 様	松下 綾子 様
名原 武子 様	嶋崎 敬子 様	森田 重義 様	本岡 真 様

神戸万国医療財団 様

問合せ先：地方独立行政法人神戸市民病院機構法人本部 財務・企画グループ財務チーム TEL：078-940-0157